

## 第2章 出生率等の現状

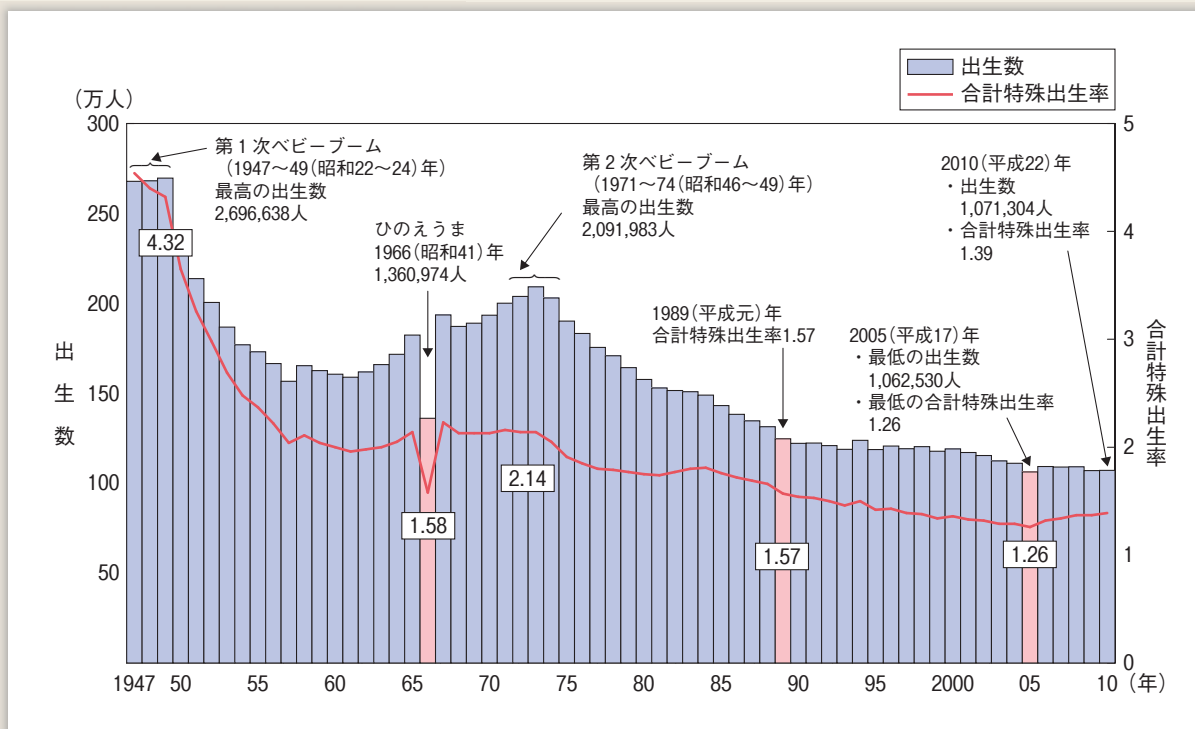
### 第1節 近年の出生率等の状況

#### 1. 出生数、出生率の推移

##### (出生数と合計特殊出生率の推移)

2010(平成22)年の出生数、107万1,304人(前年は107万0,035人)、合計特殊出生率は1.39(前年は1.37)となった。2005年から上昇に転じていることについては、大きく分けて2つの理由があるとみられており、(1)第1-2-2図のとおり、2005年時点で出産を控えていた世代が、それ以降、比較的高年齢(30~40代)で出産をしているという傾向が見られたこと、(2)第1-2-3図のとおり、世代ごとの比較で見ても、出生率を押し上げる要因である、①最終的に結婚しない者の割合(生涯未婚率)の増加、②結婚した者が一生で生む子どもの数の減少といった動きが想定していたよりも緩んでいる傾向が見られていることがある。第1章第1節でみたように、子ども・子育てビジョンにおける12の主要施策を基にしている目指すべき社会の姿の達成度への評価はまだ低く、結婚や出産・子育てに関する国民の希望がかなう社会の実現に向けて、引き続き子ども・子育て支援策の推進が求められている。

#### 第1-2-1図 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」(2010年)

注：1947~1972年は沖縄県を含まない。

## 第1-2-2図 合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）

母の年齢	合計特殊出生率								対前年増減		
	昭和60年	平成7年	12年	17年	19年	20年	21年	22年	20年-19年	21年-20年	22年-21年
総数 (合計特殊出生率)	1.76	1.42	1.36	1.26	1.34	1.37	1.37	1.39	0.03	0.00	0.02
15～19歳	0.023	0.019	0.027	0.025	0.025	0.026	0.025	0.023	0.001	-0.001	-0.002
20～24	0.317	0.202	0.197	0.182	0.183	0.185	0.178	0.178	0.002	-0.007	0.000
25～29	0.890	0.588	0.497	0.423	0.434	0.438	0.432	0.436	0.004	-0.006	0.004
30～34	0.440	0.468	0.462	0.429	0.461	0.472	0.476	0.479	0.010	0.004	0.003
35～39	0.085	0.131	0.157	0.176	0.203	0.213	0.222	0.232	0.011	0.009	0.010
40～44	0.009	0.015	0.019	0.024	0.031	0.033	0.035	0.039	0.002	0.003	0.003
45～49	0.000	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.000	0.000	0.000

注：母の年齢階級別の数値は各歳別出生率を合計したものであり、算出に用いた出生数の15歳及び49歳にはそれぞれ14歳以下、50歳以上を含んでいる。

出典：厚生労働省「人口動態統計」

## 第1-2-3図 将来推計人口における生涯未婚率、夫婦の出生児数、合計特殊出生率の推移

平成18年12月 推計 (中位)	生涯未婚率 (1990年生まれ世代) 23.5%	夫婦の出生児数 (1990年生まれ世代) 1.70人	合計特殊出生率 (2055年) 1.26
平成24年1月 推計 (中位)	生涯未婚率 (1995年生まれ世代) 20.1%	夫婦の出生児数 (1995年生まれ世代) 1.74人	合計特殊出生率 (2060年) 1.35

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月）」、「日本の将来推計人口（平成24年1月）」を基に内閣府が作成

### （年少人口と高齢者人口の推移）

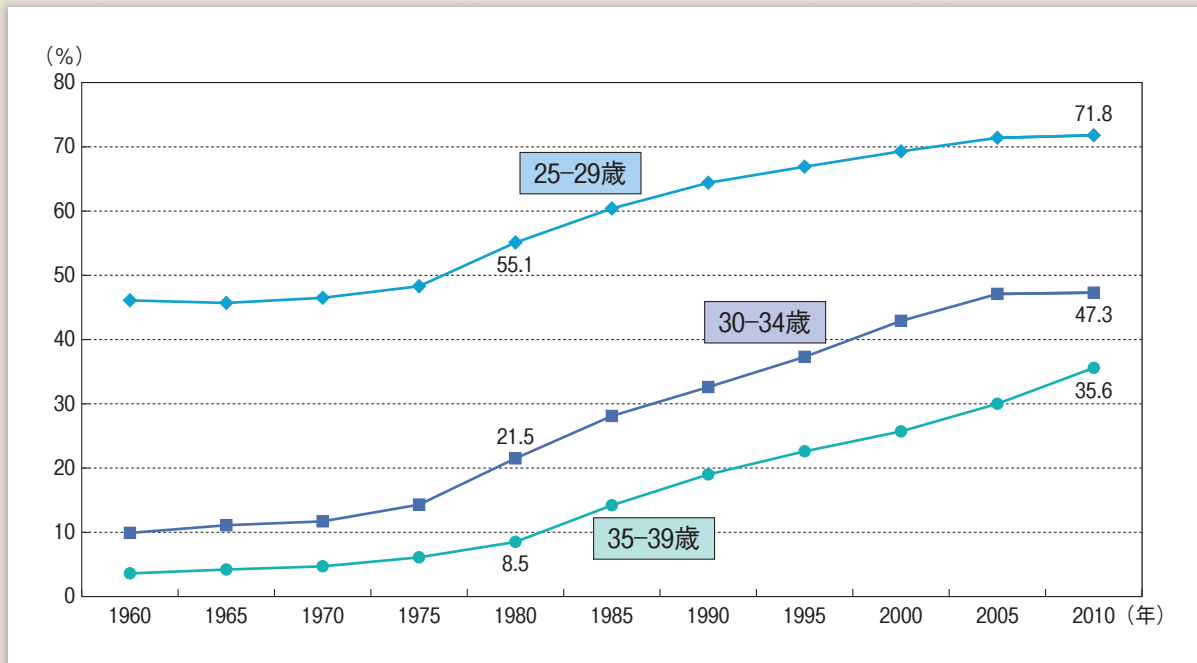
我が国における年少人口（0～14歳）は、出生数の減少により、第2次世界大戦後、減少傾向が続き、1997（平成9）年には、高齢者人口（65歳以上）よりも少なくなった。2010年総務省「国勢調査」によると、年少人口は1,680万3千人（総人口に占める割合は13.2%）であるのに対し、高齢者人口は2,924万6千人（同23.0%）となっている。

## 2. 婚姻・出産等の状況

### （未婚化・非婚化の進行）

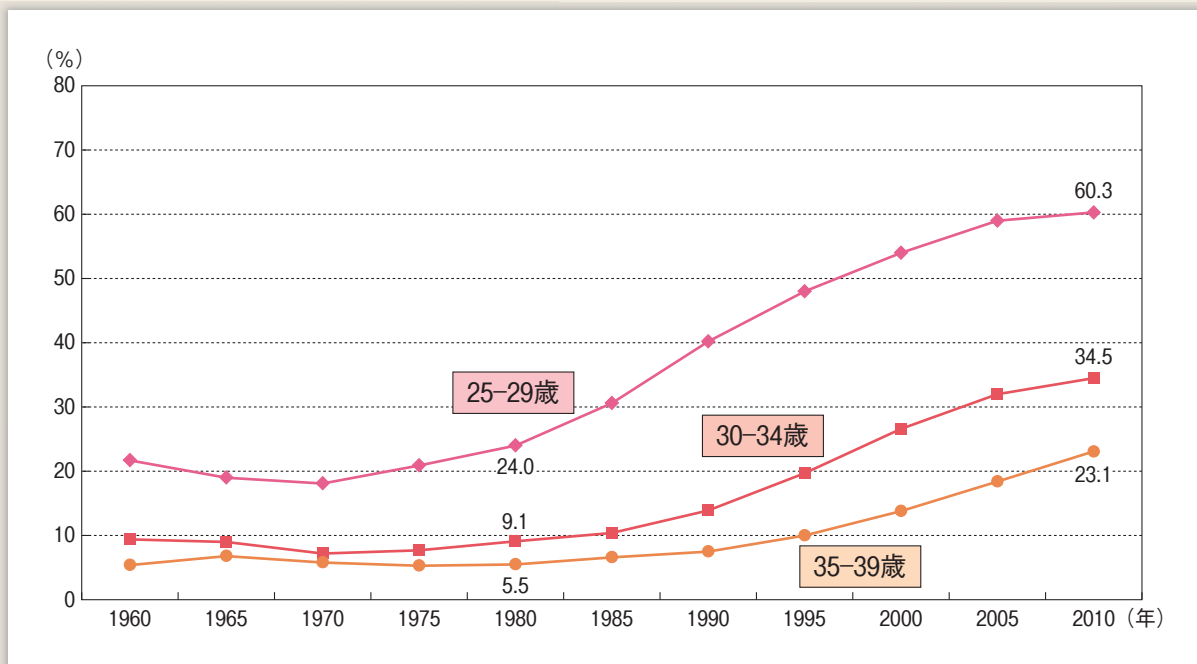
2010（平成22）年の総務省「国勢調査」によると、25～39歳の未婚率は男女ともに引き続き上昇し、男性では、25～29歳で71.8%、30～34歳で47.3%、35～39歳で35.6%、女性では、25～29歳で60.3%、30～34歳で34.5%、35～39歳で23.1%となっている。さらに、生涯未婚率を30年前と比較すると、男性は2.60%（1980（昭和55）年）から20.14%（2010年）、女性は4.45%（1980年）から10.61%（2010年）へ上昇している。

### 第1-2-4図 年齢別未婚率の推移（男性）



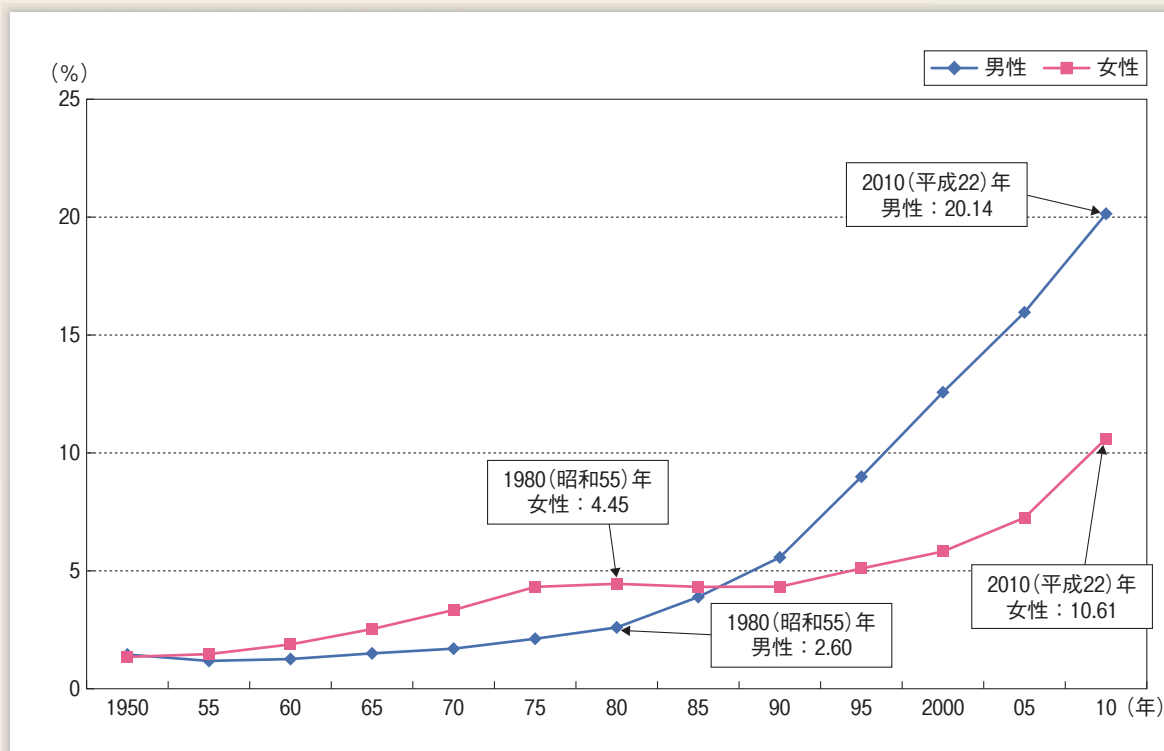
資料：総務省「国勢調査」（2010年）  
 注：1960～1970年は沖縄県を含まない。

### 第1-2-5図 年齢別未婚率の推移（女性）



資料：総務省「国勢調査」（2010年）  
 注：1960～1970年は沖縄県を含まない。

## 第1-2-6図 生涯未婚率の年次推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集（2012年版）」

注：生涯未婚率は、45～49歳と50～54歳未婚率の平均値であり、50歳時の未婚率。

### （晩婚化、晩産化の進行）

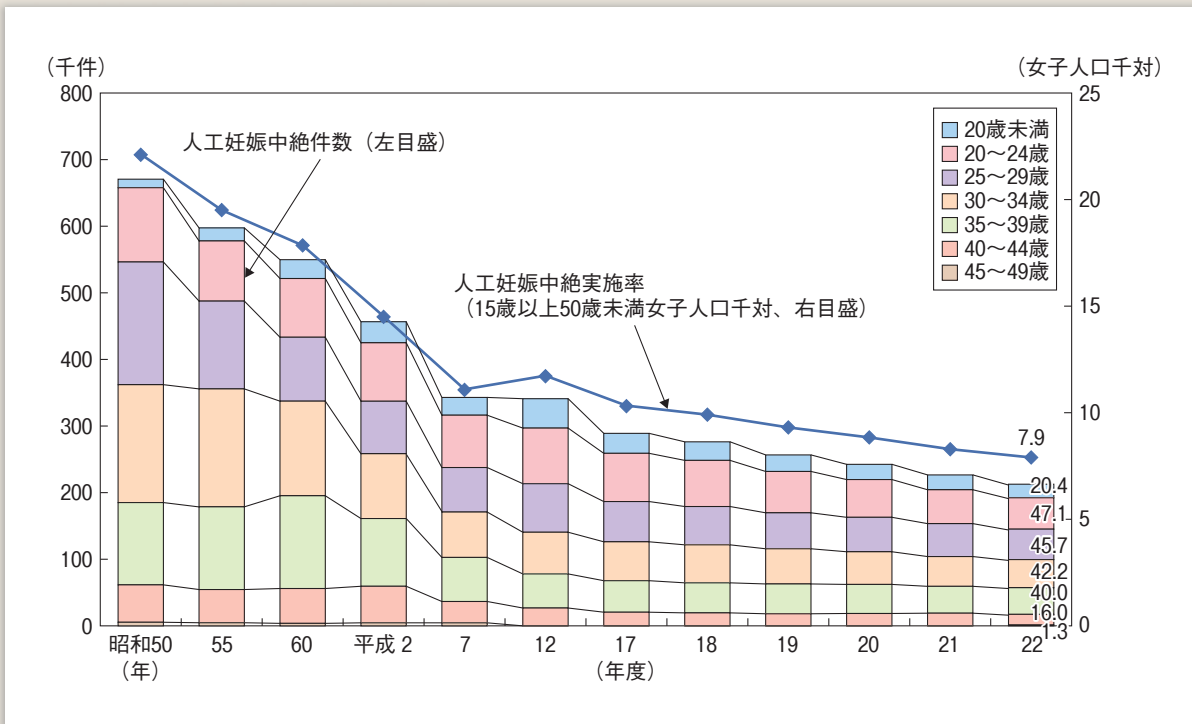
日本人の平均初婚年齢は、2010年で、夫が30.5歳（対前年比0.1歳上昇）、妻が28.8歳（同0.2歳上昇）と上昇傾向を続けており、結婚年齢が高くなる晩婚化が進行している。1980年には、夫が27.8歳、妻が25.2歳であったので、30年間に、夫は2.7歳、妻は3.6歳、平均初婚年齢が上昇していることになる。

出生したときの母親の平均年齢をみると、2010年の場合、第1子が29.9歳、第2子が31.8歳、第3子が33.2歳であり、30年前の1980年と比較すると、3.5歳、3.1歳、2.6歳上昇している。

### （人工妊娠中絶の状況）

人工妊娠中絶件数及び人工妊娠中絶実施率（15歳以上50歳未満女子人口千対）の平成22年度までの動向を見ると、件数、実施率共に総じて減少傾向にある。

## 第1-2-7図 人工妊娠中絶実施率等の推移



- 備考：1. 平成12年までは厚生省「母体保護統計報告」、17年度からは厚生労働省「衛生行政報告例」より作成。  
 2. 平成22年度は、東日本大震災の影響により、福島県の相双保健福祉事務所管轄内の市町村が含まれていない。  
 3. 実施率は、分母に15～49歳の女子人口を用い、分子に50歳以上の数値を除いた「人工妊娠中絶件数」を用いて計算した。

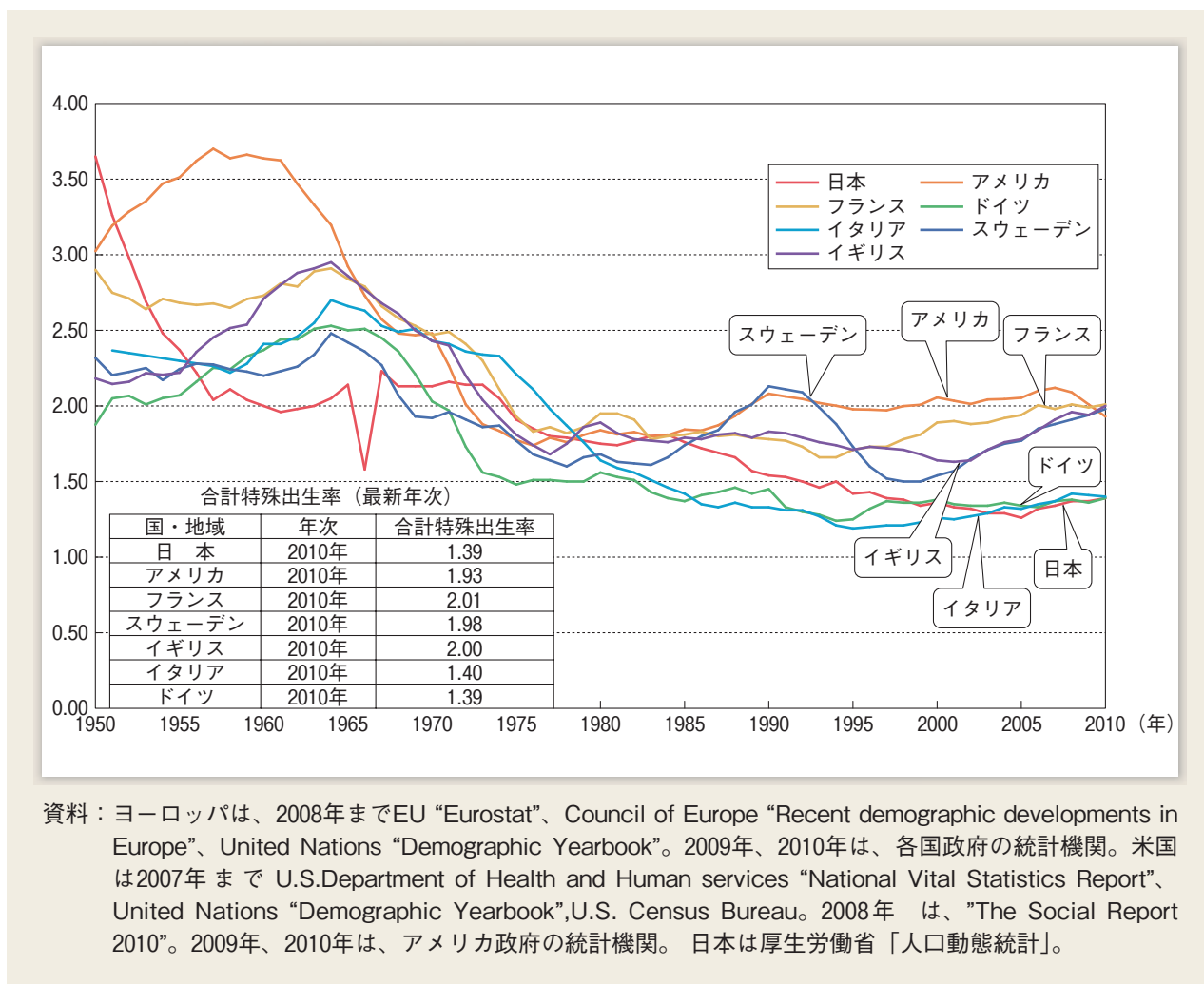
出典：厚生労働省「衛生行政報告例」より作成

### 3. 諸外国における出生率の状況

主な国（アメリカ、フランス、スウェーデン、イギリス、イタリア、ドイツ）の合計特殊出生率の推移をみると、1960年代までは、すべての国で2.0以上の水準であった。その後、低下傾向となったものの、ここ数年では回復する国もみられるようになってきている。

直近ではフランスが2.01（2010年）、スウェーデンが1.98（2010年）となっている。これらの国々は、出産・子育てと就労に関して幅広い選択ができるような環境整備、すなわち「両立支援」を強める方向で政策が進められている。

第1-2-8図 主な国の合計特殊出生率の動き（欧米）



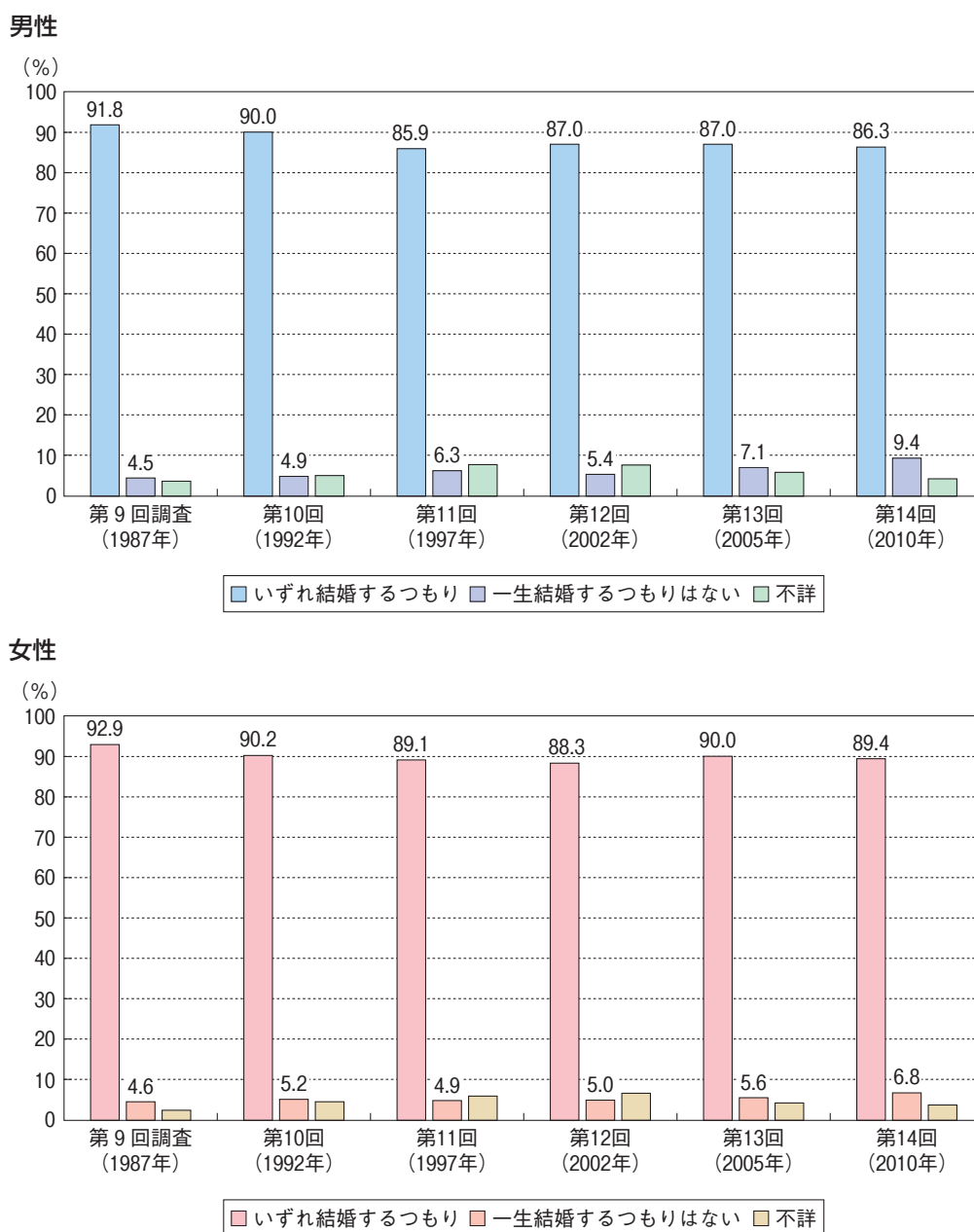
資料：ヨーロッパは、2008年までEU “Eurostat”、Council of Europe “Recent demographic developments in Europe”、United Nations “Demographic Yearbook”。2009年、2010年は、各国政府の統計機関。米国は2007年まで U.S.Department of Health and Human services “National Vital Statistics Report”、United Nations “Demographic Yearbook”,U.S. Census Bureau。2008年 は、“The Social Report 2010”。2009年、2010年は、アメリカ政府の統計機関。日本は厚生労働省「人口動態統計」。

## 4. 結婚、出産、子育てをめぐる状況

### （結婚に対する意識）

国立社会保障・人口問題研究所が実施した「第14回出生動向基本調査結婚と出産に関する全国調査（独身者調査）」（2011（平成23）年）によると、第1-2-9図のとおり、いずれは結婚しようとする未婚者の割合は、男性は86.3%、女性は89.4%と、依然として高い水準にある。しかし、「一生結婚するつもりはない」とする未婚者は第9回調査以降、男性、女性ともに緩やかな増加傾向にあり、男性9.4%、女性6.8%となり、独身志向を表す未婚者が増えた形となっている。

## 第1-2-9図 調査別にみた、未婚者の生涯の結婚意思



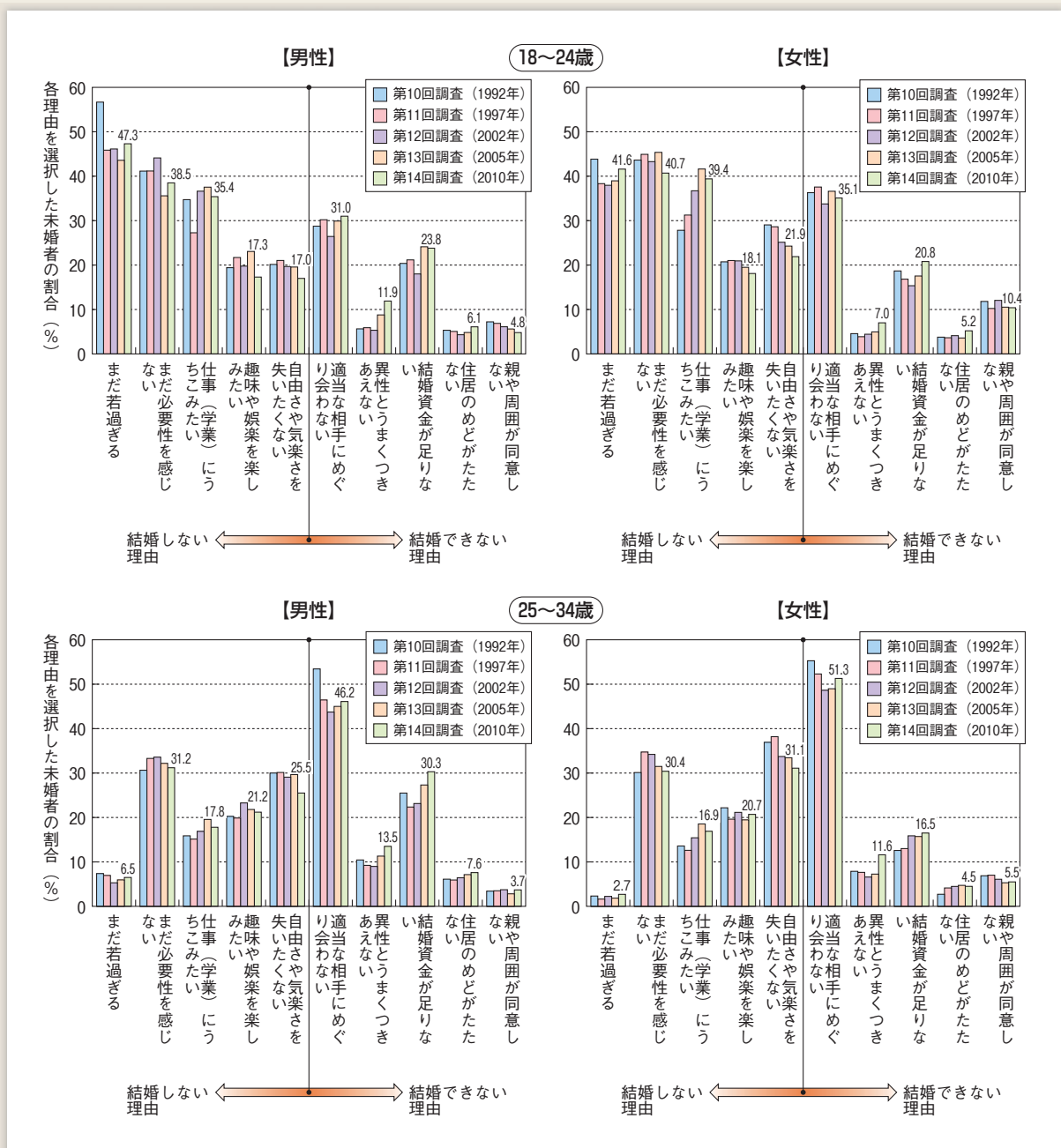
資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（独身者調査）」（2011年）

注：対象は18～34歳未婚者。各調査の年は調査を実施した年である。

未婚者に対して独身にとどまっている理由をたずねたところ、第1-2-10図のとおり、18～24歳では「まだ若すぎる」（男性47.3%、女性41.6%）、「まだ必要性を感じない」（男性38.5%、女性40.7%）、「仕事（学業）にうちこみたい」（男性35.4%、女性39.4%）など、結婚するための積極的な動機がないという「結婚しない理由」が多く挙げられている一方、25～34歳では、「適当な相手にめぐり会わない」（男性46.2%、女性51.3%）を中心に、結婚の条件が整わないという「結婚できない理由」へ傾向が変化している。しかし、「結婚しない理由」の

うち、「必要性を感じない」(男性31.2%、女性30.4%)、「自由さや気楽さを失いたくない」(男性25.5%、女性31.1%)について、独身にとどまっている理由としてあげた25~34歳の未婚者は多い。25~34歳の男性では、「結婚資金が足りない」をあげた割合(30.3%)が、女性に比べ(16.5%)高くなっている。

## 第1-2-10図 調査・年齢別にみた、独身にとどまっている理由



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（独身者調査）」（2011年）

注：未婚者のうち何%の人が各項目を独身にとどまっている理由（三つまで選択）として挙げているかを示す。各調査の年は調査を実施した年である。グラフ上の数値は第14回調査の結果。

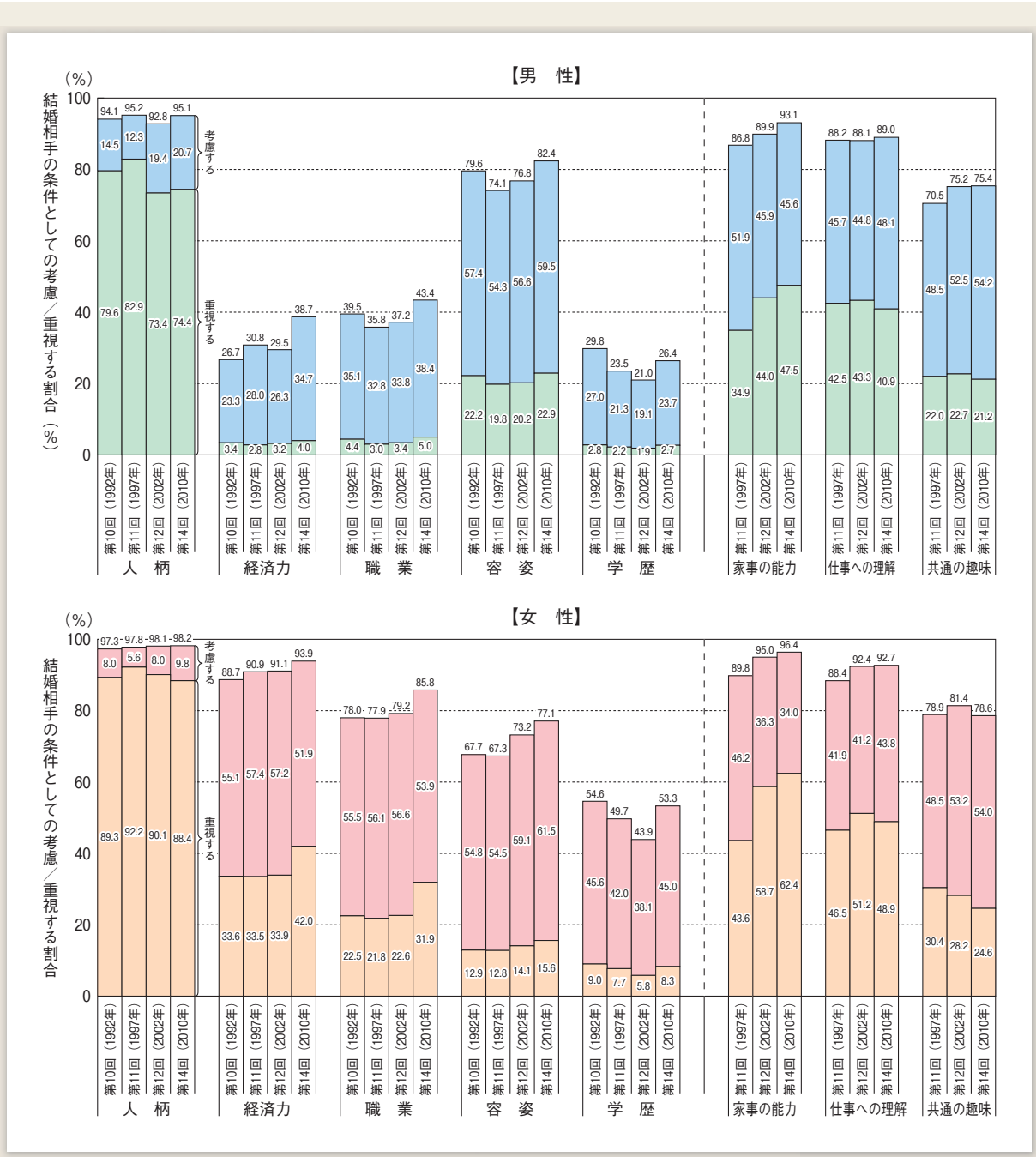


また、結婚する意志のある未婚者が結婚相手に求める条件としては、男女とも「人柄」を重視または考慮する人が最も多い（男性95.1%、女性98.2%）。次いで、男性は「家事の能力」（93.1%）、「仕事への理解」（89.0%）、「容姿」（82.4%）などとなっている一方、女性は「家事の能力」（96.4%）、「経済力」（93.9%）、「仕事への理解」（92.7%）、「職業」（85.8%）となっている。

女性では、男性よりも「経済力」「職業」を考慮・重視する割合（「経済力」（男性38.7%、女性93.9%）、「職業」（男性43.4%、女性85.8%））が高い。そのうち「経済力」を「重視する」割合は第12回調査の33.9%から42.0%、「職業」を「重視する」割合は22.6%から31.9%と増加している。

また、男性でも、「経済力」を考慮・重視する割合が、第12回調査の29.5%から38.7%と増加している。

第1-2-11図 調査別にみた、結婚相手の条件として考慮・重視する割合の推移

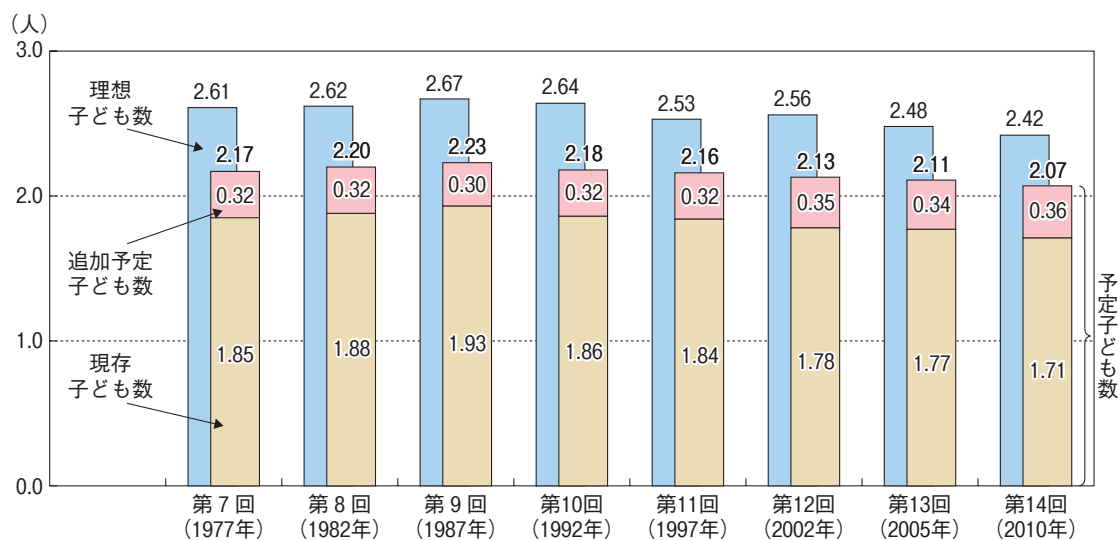


資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（独身者調査）」（2011年）  
 注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚。各調査の年は調査を実施した年である。

（出産に対する意識）

国立社会保障・人口問題研究所が実施した「第14回出生動向基本調査結婚と出産に関する全国調査（夫婦調査）」（2012（平成24）年）によると、第1-2-12図のとおり、夫婦にたずねた理想的な子どもの数（平均理想子ども数）は、前回の第13回調査に引き続き低下し、調査開始以降最も低い2.42人となった。また、夫婦が実際に持つつもりの子どもの数（平均予定子ども数）も、初めて2.1を下回り、2.07人となっている。

## 第1-2-12図 調査別にみた、平均理想子ども数と平均予定子ども数の推移

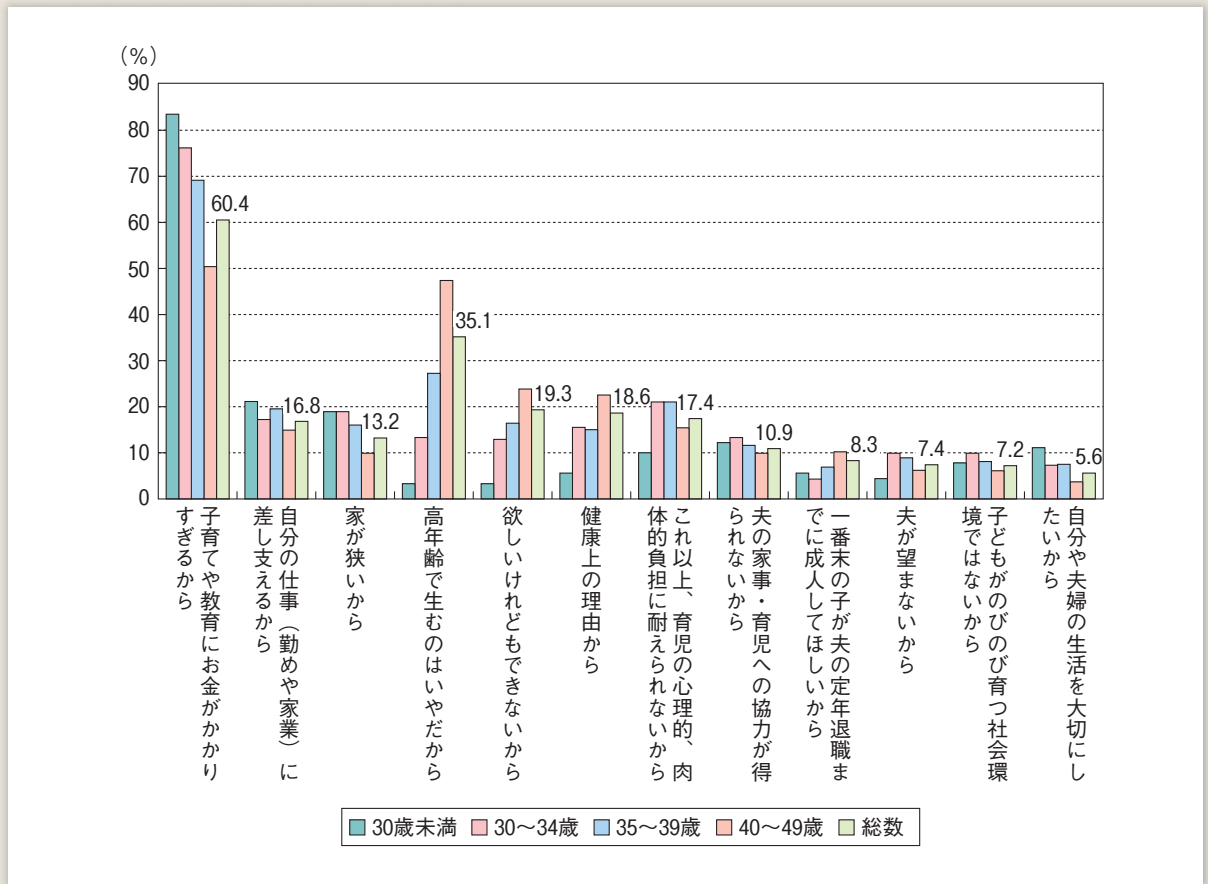


資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（夫婦調査）」（2011年）

注：対象は妻の年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。予定子ども数は現存子ども数と追加予定子ども数の和として算出。総数には結婚持続期間不詳を含む。各調査の年は調査を実施した年である。

理想の子ども数を持たない理由として、最も多いのが、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（総数60.4%）であり、前回の第13回調査（65.9%）に比べ若干減少している。年代別にみると、若い世代ほど割合が高くなる傾向がみられる。次に多いのが、「高年齢で生むのはいやだから」（総数35.1%）であり、年代別にみると、年代が高くなるほど、割合が高くなる傾向がみられる。

第1-2-13図 妻の年齢別にみた、理想の子ども数を持たない理由



資料：国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（夫婦調査）」（2011年）

注：対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る初婚どうしの夫婦。予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦の割合は32.7%。